

2-22-1 金森家累代供養塔 金森家殉死者の墓

京都へ改葬された金森家の墓地跡に立つ供養塔の左右に、主君に殉死した家臣の墓石が集められている。

向かって左の内側の2基は、元和元年（1615）閏6月3日没した金森家第2代可重^{ありしげ}に殉死した森石衛門九郎政吉と山蔵縫殿助宗次^{ぬいのすけ}のもの。外側のもう1基は、正保4年（1647）8月7日に没した金森家第3代重頼^{しげより}の9男重利に殉死した野田源五左衛門清次のもの。

供養碑の右側の4基は、慶安3年（1650）4月7日に没した重頼に殉死した平岡三郎兵衛忠勝・遠藤右京頼忠・大野瀬兵衛長矩・西塚三郎左衛門忠明のものである。

殉死は家臣が死後も主君に奉公する意味で、寛文3年（1663）幕府はこれを禁止した。

高山市教育委員会

説明板より